

2009.9.3 (木)

徳島新聞

西病棟が完成 20日から稼働

県内唯一 1種感染症対応



完成した西病棟。県内初の第1種感染症病床も備えている。徳島大学病院

徳島大学病院（香川征院長）に建設されていた西病棟が完成した。県内で初めて第1種感染症に対応した病床を新設。白血病など血液の病気が専門の細胞治療センターも備える。14日、完成記念式典が催される。

西病棟は鉄筋鉄骨コンクリート11階建て、延べ床面積は約1万9100平方メートル。1～8階は隣接する東病棟と連絡している。

第3病棟から移す細胞治療センター（28床）は、免疫力が低下した患者の感染症予防のため、空気中のほこりなどを抑えたクリーンルームになっている。

第3病棟から移す細胞治療センター（28床）は、免疫力が低下した患者の感染症予防のため、空気中のほこりなどを抑えたクリーンルームになっている。

第3病棟と歯科病棟に入院中の患者計約300人は20、21の両日、西病棟へ移る。

施設の老朽化や高度医療に対応するため、2007年1月から建設していた。総事業費は約70億円。